

第三百八回 青葉会

平成二十三年十一月二十四日(木) 午後六時〜九時

丸紅来客食堂「談話室」

☆ 川合万里子 先生

〈出席者〉 伊賀山そらお 石川清 今井紀久男 大林猛 小川恭延 柿崎忠彦 久米五郎太 小西弘子

豊田ゆたか 中野一灯 橋口隆 福島正明 山崎亜也

〈投句〉 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 古田昇 南平和夫 宮内規雄 山内天牛 渡邊盛雄

赤田堅 川口孤舟 庄司龍平 高橋敏郎 早川允章 村田くに子 山崎青史 山内天牛

山本三恵

ゴシックは選者の天

《選者吟》 管迫(はこせこ)は曾祖母ゆづり七五三 万里子 (五・く・青・天)

(青:ユニークな句材と情景を切りとった佳句)

峠越す野猿の群へ初時雨 全 (孤・敏)

目覚しの電池を換へる霜の朝 全 (一)

冬晴れや絶好調のジャグリング 全 (五)

不況下の小春の公園父子多し 全

《互選句》

七点 干し蝶軒端に匂ふ磯泊り 一灯 (堅・そ・猛・隆・允・く・青)

(青:海の匂いが鼻を衝いてくる。佳句。但し干し蝶は春の季語です)

六点 散紅葉(ちりもみぢ)嫌はれ好かれ談志逝く 紀久男 (猛・弘・敏・隆・允・亜)

熨斗紙を甲らにのせて蟹届く 天牛 (猛・五・一・正・亜・青)

☆ (青:蟹だけだと夏の季語になるので↓「熨斗紙を甲羅にずわい蟹届く」としては? 尚甲らは甲羅がいい。「のせて」はいわずもがな)

中村芝翫葬儀

五点 神谷町!掛け声しきり菊の棺

紀久男 (忠・隆・允・正・天)

☆ 携帯に稲刈の音兄の声 忠彦 (万・弘・敏・ゆ・一)

財産は畏友の数やおでん酒 恵洲 (堅・そ・清・忠・弘)

四点 顔見世や米寿と唄ふ御簾の内 紀久男 (恭・隆・正・天)

箸先の薄さに震えるてつさかな 忠彦 (猛・五・青・三)

(青:中八になるけど語順を変えて↓「箸先に震えるてつさ薄さかな」では?)

間伐の木口匂へりしぐれ雲 一灯 (五・龍・ゆ・天)

一步づつ地球持ち上げ蓮根掘る 昇 (堅・清・猛・孤)

三点 文化の日満州語らぬ伯母逝けり 忠彦 (恭・允・亜)

段葛色付く木々に時雨来る 五郎太 (そ・龍・允)

主婦の貌牡蠣釜飯の底をかく 弘子 (紀・敏・三)

フクシマの稲穂哀しや頭垂れ ゆたか (堅・清・隆)

旅の礼母から貰ひ冬に入る 隆 (龍・亜・天)

くさぐさの病抱えて冬に入る 全 (そ・忠・允)

モノクロで観る黄落のラストシーン 昇 (忠・弘・一)

☆ 掃除夫に間違へられて落葉掃く 天牛 (万・ゆ・一)

花一つなき庭さえも柿たわわ 全 (猛・天)

二点 暮れ残り時雨に沈む伊賀路かな 全 (紀・一)

(中七の表現が秀逸)

☆ 訪れし古井戸淋し一葉忌 清 (万・敏)

かさこそと落葉踏む音山の道 全 (堅・く)

談志逝く古典落語に風寒し 全 (紀・く)

冬の陽の眩しき坂や雨上がり
漱石の草稿厚し冬館
秋深しビーグル犬の眼は白く

「曾根崎心中」

☆ 父と子のお初徳兵衛小春かな
石菫(つはぶき)の黄はいよよ黄に人を恋ふ
澱みなき朗読一節一葉忌

すれ違ふ熊手に手締め之余韻かな
すき焼きや親譲りなる駄洒落好き
裸足子ら嬉々と土踏み運動会

☆ 横しぐれ登呂の草屋に雨宿り
☆ 峡晴れてガードレールにふとん干す
岳父逝く比叡おろしに抗し得ず

☆ マスクしていささか世をば憚らむ
肝賞でし皮はぎの身は煮凝に
☆ 縄跳びのの縄もつ母も跳ばんとす
自分史の終章近し浮寝鳥

一点
初みかん二つに割りて香(かおり)かぎ
芝居はねタクシー急(せき)かす紅葉狩
山里に黄色がもゆる銀杏立つ

人思い山思われる紅葉月(もみぢづき)
秋空は白雲浮かべ清(す)まし顔

☆ よちよちも杖持つ人も落葉道
友の親送るそれぞれ草紅葉
暖冬や七十億の人いきれ
冬鷺の塑像のごときつがいかな

葭原より冬鶉翔つなり竹生島
秋天の御所の内庭香気満つ
かわらけに注ぐ濁り酒大原女

この秋は訃報の多し白き空
☆ 駅ビルの裾アンドレスの鼓笛冴ゆ
冬ざれやべらんめえ調の居なくなり

君の訃報暮れの葉書で知りたるや
存在の指紋を探す十二月
真ん丸にならぬビザ生地年果つる

山茶花や崩れ勝ちになる内面
葱白し口ついて出る芭蕉の句
蕎麦搔と根來の鉢の古りし色

☆ 尻天に向けて実の成る榎櫃かな
☆ 亡き父母の香華に植えし野紺菊

恭延 (堅・龍)
全 (紀・孤)
忠彦 (五・正)

五郎太 (万・隆)
全 (紀・三)
弘子 (孤・正)

全 (そ・三)
恵洲 (ゆ・亜)
ゆたか (そ・弘)

一灯 (万・く)
全 (万・青)
和夫 (恭・亜)

亜也 (万・正)
全 (ゆ・青)
全 (万・忠)

盛雄 (紀・弘)
そらお (く)
紀久男 (三)

猛 (龍)
全 (紀)
全 (清)

忠彦 (万)
弘子 (龍)
健介 (恭)

全 (恭)
堂哉 (紀)
ゆたか (敏)

全 (孤)
全 (清)
一灯 (万)

隆 (ゆ)
全 (恭)
全 (忠)

全 (清)
全 (五)
規雄 (孤)

全 (三)
天牛 (紀)
盛雄 (万)

師走の予定

十二月九日(金) 恒例寄席見物(末廣亭昼席)

年忘れ句会(コンチエルト 談話室)